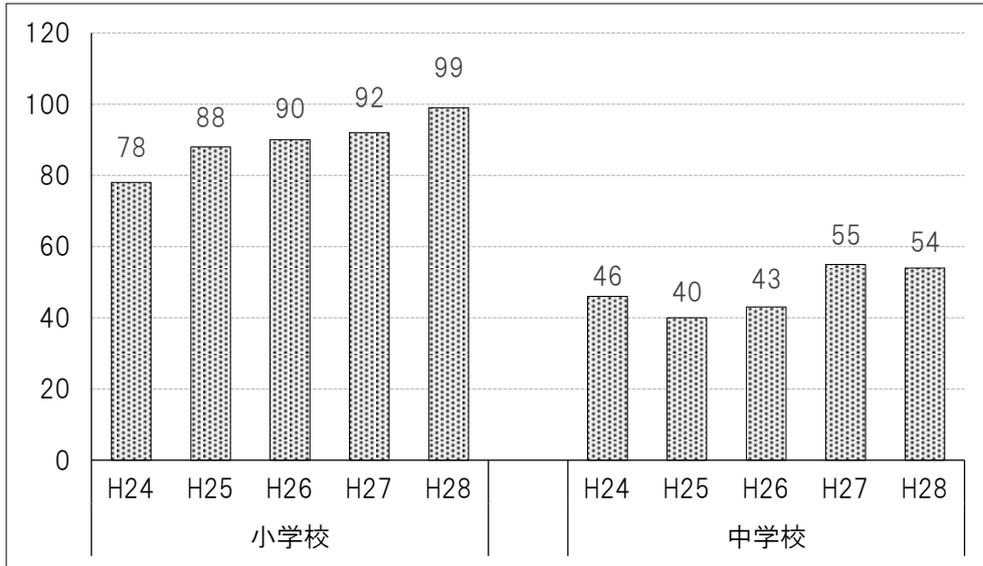


特別支援教育に関する状況について（平成 28 年度）

1 特別支援学級に在籍する児童・生徒数 ※数値はすべて 5 月 1 日現在

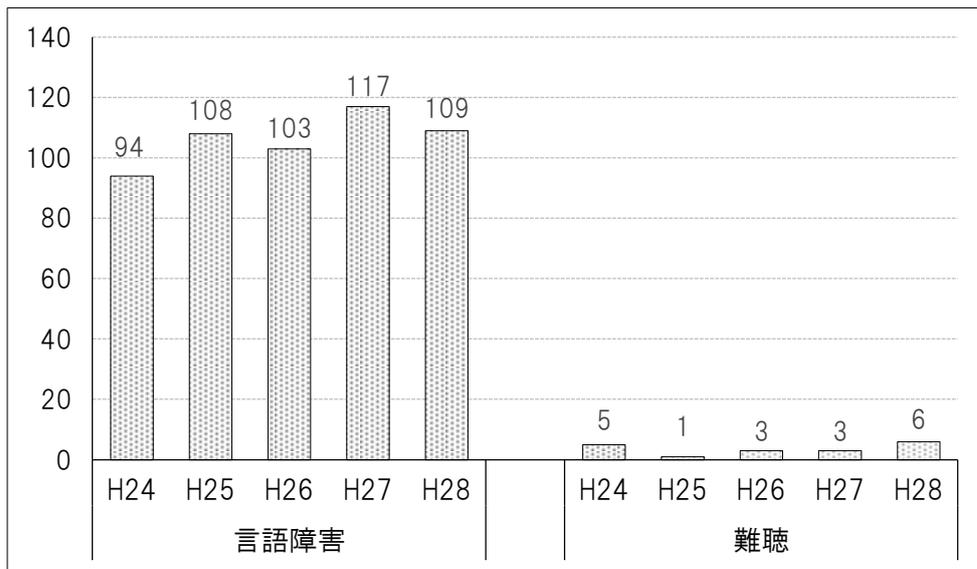
(1) 知的障害学級（固定学級） [小学校：6 校、中学校：3 校]



小学校の知的障害学級の在籍児童数は、微増傾向が続いています。平成 28 年度は、99 名中、3 分の 1 にあたる 33 名（5 学級）が 1 校に過密集中していることが課題です。
 中学校は 40 人台で推移しましたが、27 年度に大きく伸びました。

(2) 通級指導学級

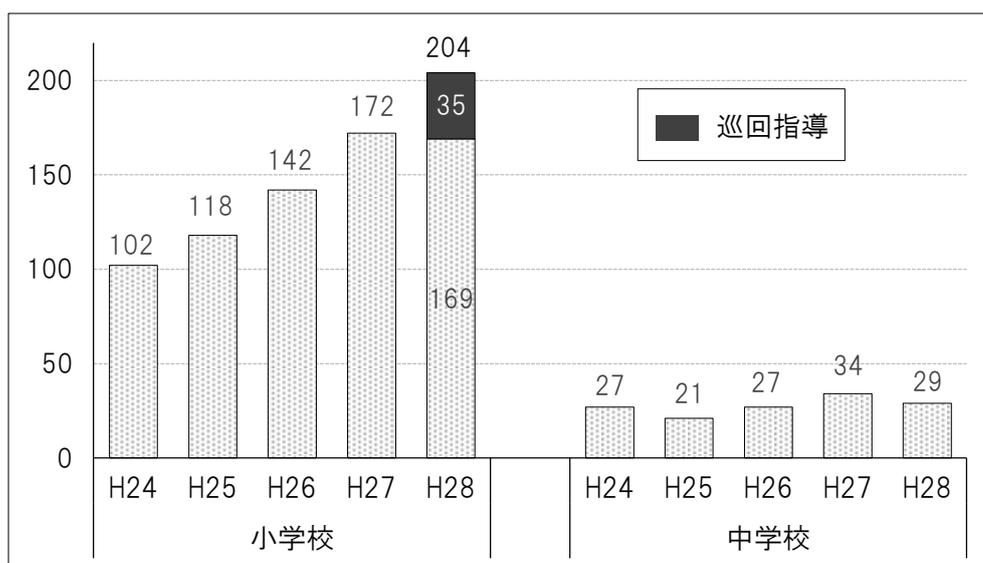
ア 難聴・言語障害通級指導学級 [難聴：1 校、言語障害：2 校。いずれも小学校のみ。]



難聴通級指導学級は、28 年度に増加し、現在 6 人の児童が利用しています。
 言語障害通級指導学級は、平成 25 年度以降、100 人に超える利用が続いていますが、状況改善等により、27 年度中に退級した児童も 23 人いました。

イ 情緒障害等通級指導学級／特別支援教室キラリ

〔小学校：9校／うちキラリ8校。中学校：3校。〕

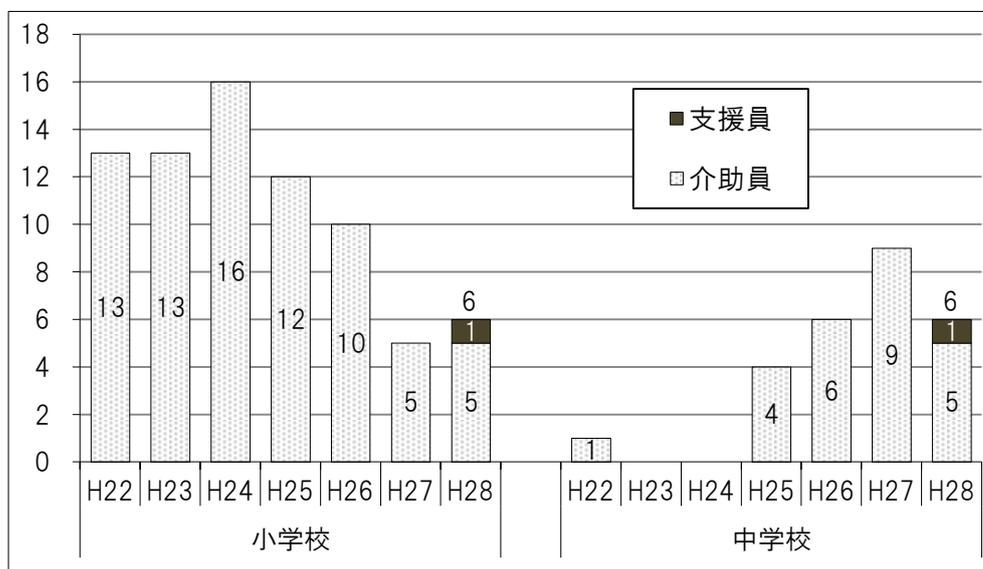


小学校の情緒障害等通級指導学級の利用児童数は毎年増加し、平成27年度は状況改善等による退級が8名であったのに対し、71名が新たに入級しました。4年間で利用児童が倍増しています。

平成28年度より、東京都のガイドラインに沿い、特別支援教室（立川市での愛称:キラリ）を市内8校の小学校で導入し、35名の児童が在籍校にて巡回指導教員による指導を受けることとなりました。

2 通常の学級介助員の配置状況

※平成22年度から、立川市社会福祉協議会に事業を委託。

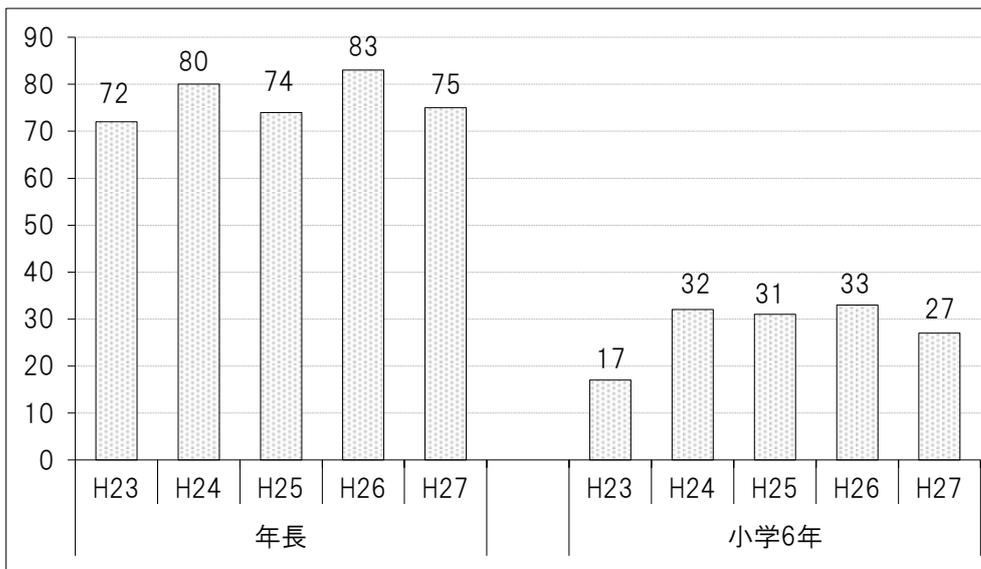


平成27年度に特別支援学校での管理職経験を有する者を教育支援相談員として新たに配置したことにより、定期的な支援会議の開催、介助や指導・支援に関する助言、個別の教育支援計画の作成等に対する学校への助言に対応できるようになりました。

また、障害の状況が多様化していることなどを踏まえ、28年度からは特別支援教育支援員制度との選択配置ができるよう要綱を改正し、小・中学校それぞれ1名ずつについて支援員が加配されています。

3 就学相談について

(1) 全体

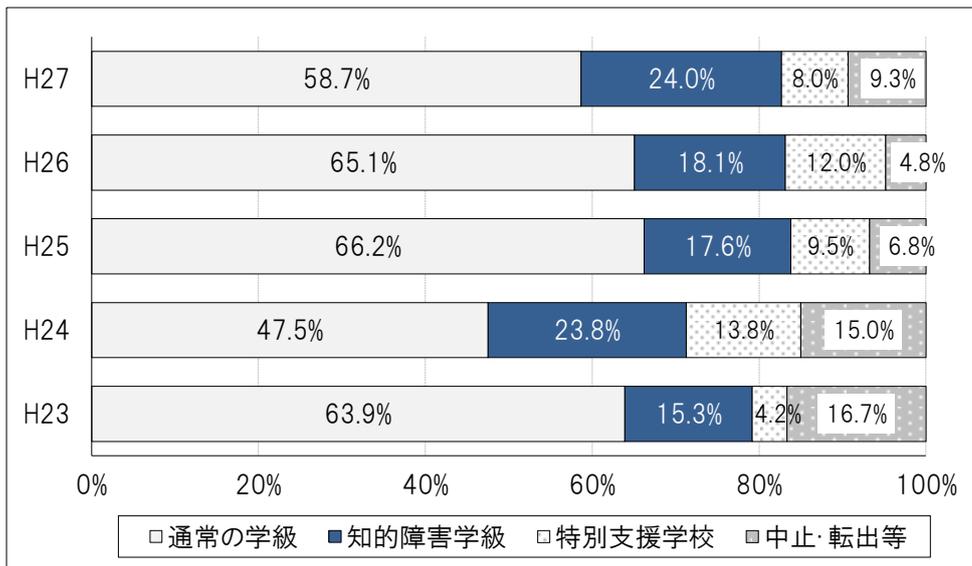


(2) 小学校

ア 就学先決定の状況

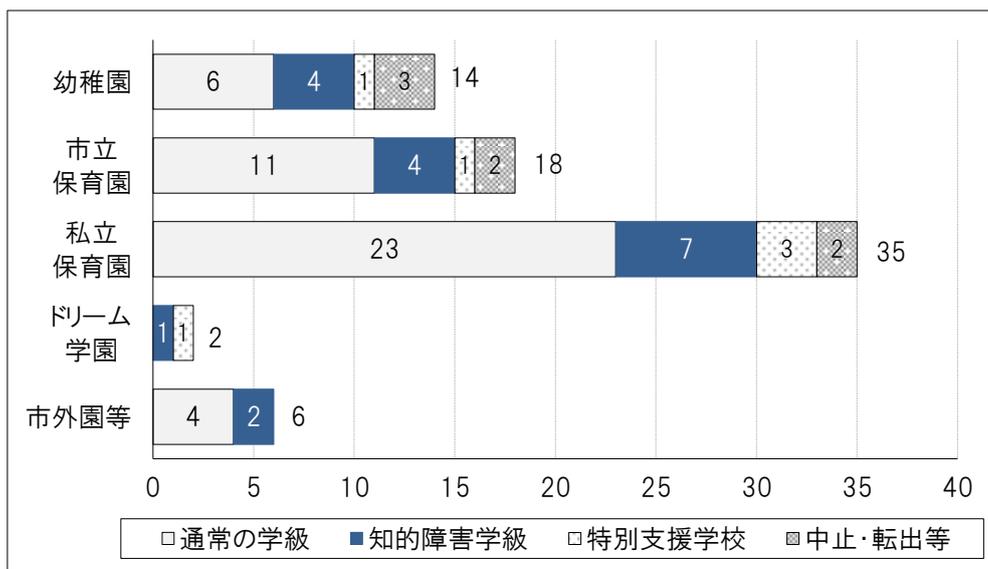
	通常の学級	特別支援学級	特別支援学校			市外 転出等	中止	合計
			知的	肢体	その他			
小学校	44	18	5	1	0	2	5	75

イ 就学先別内訳の割合



就学相談の結果、特別支援学級に就学する児童の割合が微増しています。当初より通常の学級に就学することで保護者の意向が固まっていたり、主治医からの所見が出ていたりするケースが、就学支援シートの提出のみに流れている傾向が強まっていると推測されます。

ウ 就学相談を利用した年長児の属性内訳



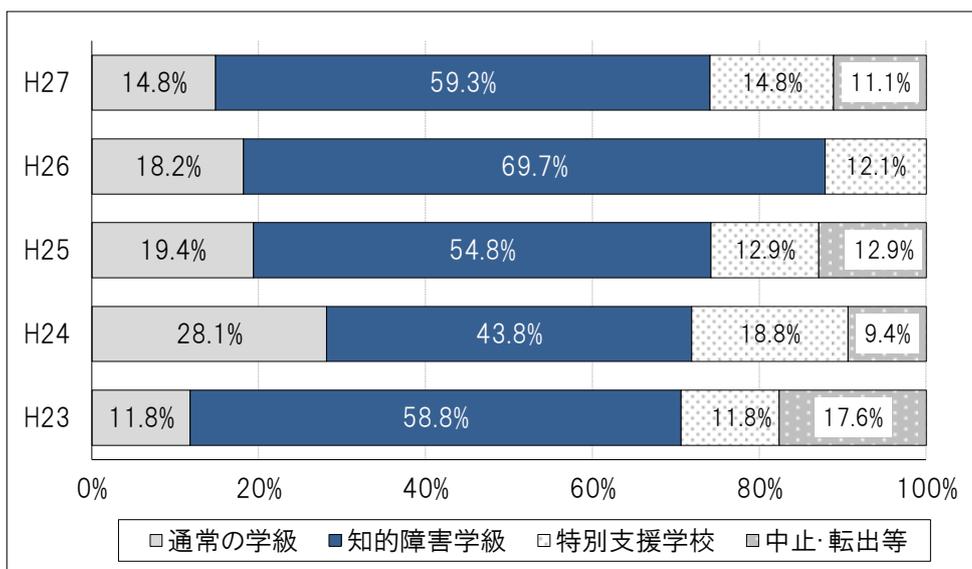
就学相談利用者の属性別にみまると、私立保育園に通園している児童数が年々増加しています。各園での多様な児童の受入れや就学相談の周知協力の大きさに加え、市立保育園の民営化による属性変更も影響していると考えられます。

(3) 中学校

ア 就学先決定の状況

	通常の学級	特別支援学級	特別支援学校			市外 転出等	中止	合計
			知的	肢体	その他			
中学校	4	16	3	1	0	1	2	27

イ 就学先別内訳の割合



中学校に向けての就学相談では、すでに小学校の知的障害学級に在籍している児童が申し込むことから、平均すると半数以上の相談において、知的障害学級に就学しています。

4 子ども家庭支援センター発達支援係との連携

平成27年度からは就学相談説明会を教育支援課・子ども家庭支援センターの共催とし、発達支援親子グループや幼稚園・保育園での巡回相談等で関わっていたケースが円滑に就学相談につながるよう取り組みました。

その結果、就学相談につながった児童75人中、56人(74.7%)が子ども家庭支援センターからの紹介ケースでした。この割合は、前年度の28人(相談者の33.7%)から倍増しています。

5 平成26年度に就学相談を受けた児童・生徒のその後の状況

(1) 支援の状況

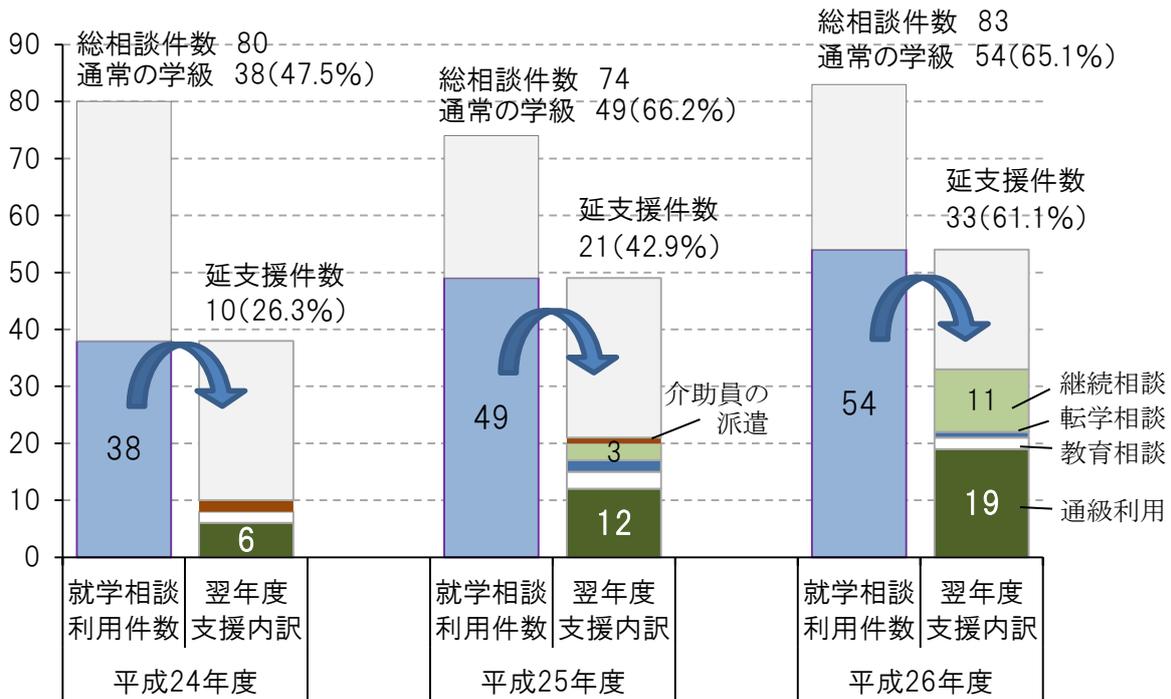
通常の学級に在籍

学校	人数
小学校	54
中学校	6

平成27年度の支援の状況

介助員の派遣	通級指導学級利用	教育相談利用	転学相談	継続相談	合計
0	19	2	1	11	33 (61.1%)
1	1	1	0	2	5 (83.3%)

(2) 通常の学級に就学した児童への継続支援の推移



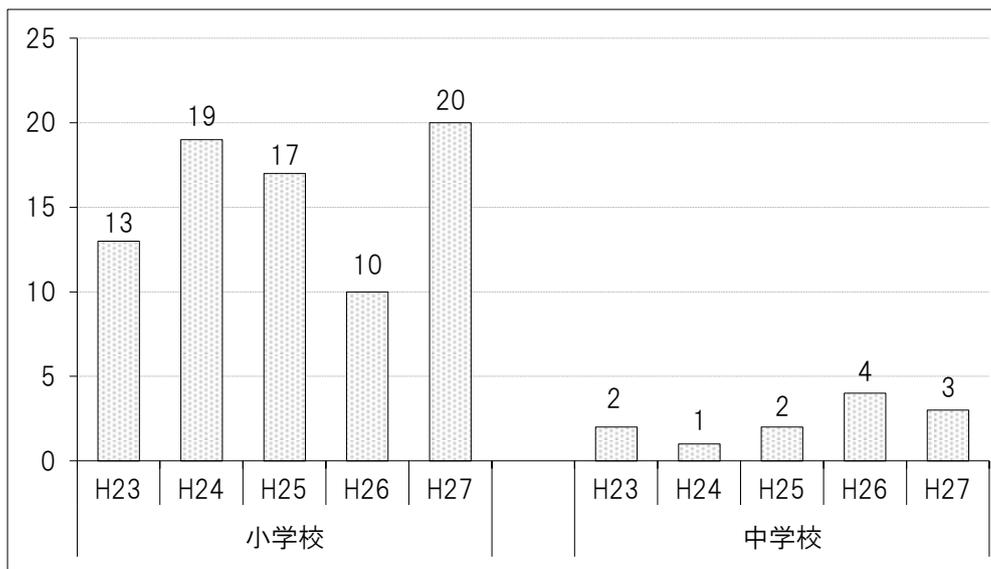
(3) 就学相談後の継続相談実施件数

	合計
小学校	12
中学校	5
合計	17

※1学期に授業観察、2学期から3学期末にかけて、学校、保護者及び教育委員会で学校の適応状況等について三者面談を行いました。うち1人の児童が特別支援学級に転学しています。

6 転学相談について

(1) 転学相談の状況



(2) 平成27年度の転学相談の結果について

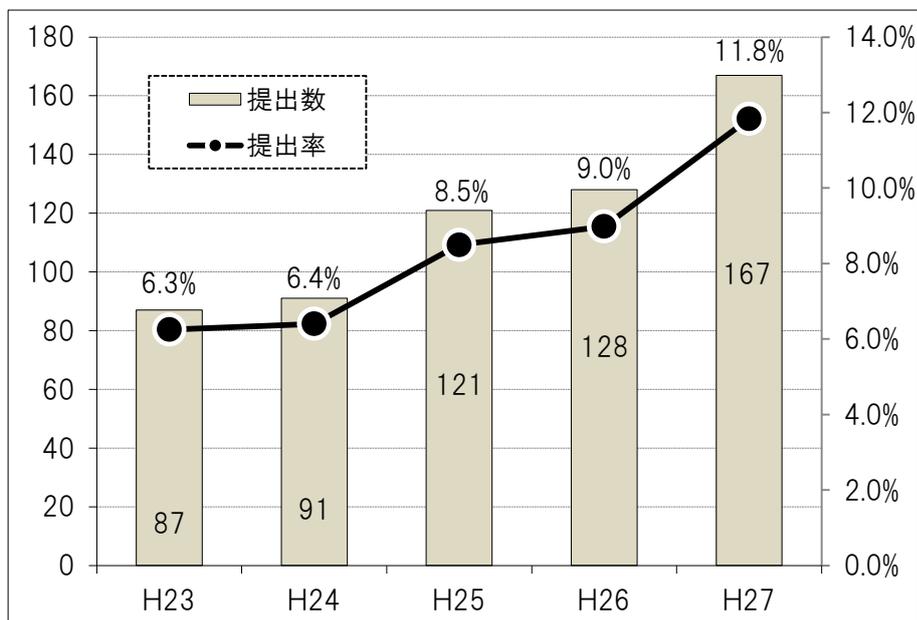
	小学校	中学校
通常の学級 → 知的障害学級	8	0
特別支援学級 → 通常の学級	1	1
他自治体から特別支援学級へ転入	3	0
その他（相談の継続または中止など）	8	2
	20	3

7 就学支援シートによる小学校への接続について

(1) 平成27年度の新たな取組

○保護者の利便性向上のため、本庁学務課及び隣接市の大規模幼稚園に配布を依頼。

(2) 利用状況



(4) 平成27年度提出（平成28年度入学生）の概要

ア 就学先の状況

通常の学級：153名

知的障害学級：14名

イ 入学前の学校面接を希望した数

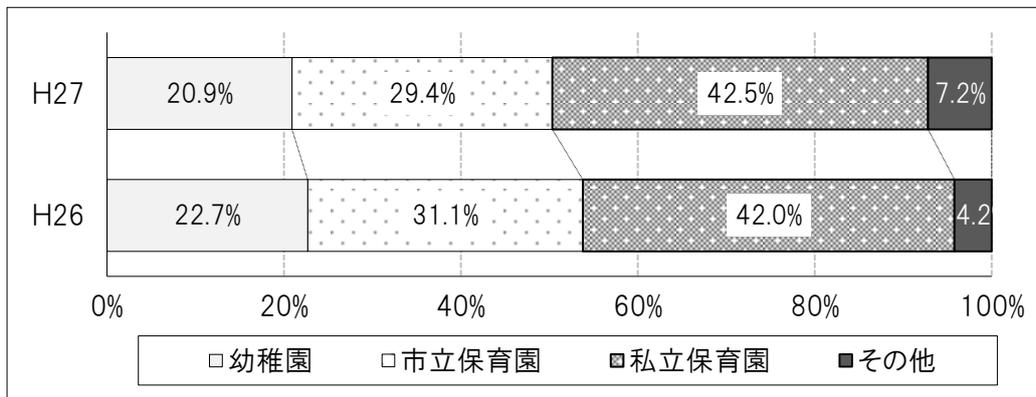
通常の学級：94名（61.4%）

知的障害学級：13名（92.9%）

ウ 在籍していた幼稚園・保育園等の状況

	幼稚園	市立保育園	私立保育園	ドリーム学園	その他	合計
通常の学級	32	45	65	0	11	153
知的障害学級	4	1	6	1	2	14
合計	36	46	71	1	13	167

エ シート提出者のうち通常の学級に就学した児童の属性割合（前年度比較）



オ シート提出者のうち特別支援学級に就学した児童の属性割合（前年度比較）

